

Nanbu

第6号
2014.05



南部管内 News

- 日青会：第30回「子供の集い」・・・・・・・・・・・・・・・・P2
- 千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要・・・・・・・・・・・・・・・・P3
- 日青会：一日読誦会・・・・・・・・・・・・・・・・P3
- 布教師会：公開講座「カルトの実態と対処法」・・・・・・・・P4
- 日青会：多磨「全生園」お会式法要・・・・・・・・・・・・・・・・P4
- 社会活動部会：伊豆大島被災地支援・・・・・・・・・・・・P5
- 宗務所：教師研修旅行・・・・・・・・・・・・・・・・P5
- 宗務所：教師研修会「ミャンマー／ビルマご遺骨帰国運動」・・・P6



Nanbu Headline

南部管内 NEWS

南部管内の寺院や各会で行われた、行事や催しを紹介します



日青会 第30回「子供の集い」 7月30日(火)～8月1日(木)

Comment

今回の子供の集いは、2年振りに身延山での開催となりました。平成26年の子供の集い(7月28日～30日)も身延山で行います。どうぞよろしくお願ひ致します。

青年会主催、第三十回「子供の集い」が、七月三十日から二泊三日の日程で、山梨県の「なかとみ青少年自然の里」で行われました。小学一年生から中学三年生までの三十名が参加しました。

一日目は「身延山久遠寺」に行き、御廟所を参拝してから掃除し、その後、常唱殿で唱題行を行いました。夜は花火大会をみんなで楽しみました。

二日目は和紙作りを体験し、「グリーンアドベンチャー」

で自然に触れ合いながら、班の団結力を高めました。夕食は野外炊飯を行い、具材を切る係と火つけ係に分かれて、カレー作りを行いました。夜は肝試しで夏の思い出を作りました。

三日目は静岡県の「富士マリンスプール」で元気に泳ぎました。

御廟所での掃除や大自然での班行動、プールでの元気な姿と笑顔など、二泊三日を通して、子どもたちの成長を実感できた集いになりました。



千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要 8月15日(木)

Comment
千鳥ヶ淵戦没者墓苑には現在358,260柱の御遺骨が納められており、参列者一同、戦争で亡くなられた尊い命に追善の意を捧げ、平和への誓いを新たにしました。

八月十五日の終戦記念日に、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて、戦没者慰霊法要が行われました。日蓮宗宗務総長・渡邊照敏上人を導師に、東京南部宗務所長・石井隆康上人を始め、東京四管区の宗務所長を副導師に、年番管区である東京南部修法師会長・吉塚誠滋上人を修法導師に迎え、追善法要と平和祈願の法要が営まれました。

法要中には千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会理事長・若松重英様より日蓮宗に対しての謝辞が述べられ、戦後六〇年以上が過ぎ、戦争の記憶が薄れていく中で、この追善法要を続けていく事の意義を述べられました。

御遺骨が納められている六角堂には、青年会主催の子供の集い参加者や、各寺院の檀信徒の皆様が折って頂いた千羽鶴を奉納し、法要後には青年会と管内有志の僧侶と共に、千鳥ヶ淵より五反田・本立寺様まで戦没者の追善と平和祈願の行脚を行いました。



布教師会 「カルトの実態と対処法」 10月28日(月)

Comment
「交互に質問する」「誹謗中傷は無し」「録音は禁止」等、対話のルールを予め提示し、違反した場合は帰ってもらうことを最初に了解させるのが肝心とのことでした。

布教師会の公開講座「カルトの実態と対処法」が、十月二十八日に朗子会館で行われました。横須賀市大妙寺住職・楠山泰道上人を講師にお迎えし、カルト教団の実態やその対処法についてご講義頂きました。

講座の前半は各カルトの概要や現状の大まかな活動を、スライドと共に解説して頂きました。今日の日本には想像以上にカルトの数が多いことに驚きました。

後半は、カルトとの向き合い方について、勧誘の手

口や、実際にお寺に来訪された時の対処の仕方についてご講義頂きました。

教師や寺族はどのような心構えで応対すべきか、投げかけてくる質問にどのように答えるか等、過去の事例を交えながら、細かく教えて頂きました。

誰もが直面するかもしれない問題だけに、「犯罪性や反社会性のある宗教に対しては、宗教者が信念を持つて宗教違反を指摘し、まじう」との言葉に、思わず身が引き締まりました。

去る十月二十三日、青年会主催の一日行堂が港区正伝寺(田村完浩住職)にて開催されました。

この一日行堂は、午前九時の水行を皮切りに、三時間ごとの水行、そして読経三昧。午後六時の最後の水行まで、途切れることなく徹底して行われます。

参加者各師の、それぞれの思いが込められた大音声の読経が正伝寺の境内を包み込みました。

中でも、二十五年度の初行入行僧である磯野善成師、

安藤正大師は、緊張した面持ちを最後まで崩すことなく、水行、読経三昧に耽っていたのが印象的でした。

最後に第参行入行僧である田村住職を導師に、今回の一日行堂を支えて頂いた檀信徒の皆様が身体健全を祈念した特別加持が行われました。

その後、入行僧歓送会が行われ、第参行入行の曇慈恭師が「入行僧五名、心をひとつにして加行して参ります」と挨拶すると、大きな拍手が湧き上がりました。



日青会 一日読誦会 10月23日(水)

Comment
当日は晴天にも恵まれ、また正伝寺檀信徒の方々の尽力もあり、全行程無事の円成となりました。

十月二十九日、東京都東村山市にある国立療養所「多磨全生園」において、東京都南部宗務所長・石井隆康上人並びに東京都西部大庭一記上人、日青会員四名により、日蓮聖人第七百三十二遠忌御会式法要が行われました。

石井所長と日青会員は午前十一時に全生園に到着。お堂の中には御会式桜が綺麗に飾られ、その中で全生園の皆様が私達を歓迎して下さいました。

一緒に写真撮影をした後、

御会式法要が始まりました。法要後には大庭上人の法話があり、皆様一人一人熱心に聴いていました。

その後は懇親を深めるため茶話会が開かれました。自己紹介が終わると手作りの料理が振舞われ、どれも美味しく、全生園の皆様と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。帰りの際には皆様笑顔で私達を見送って下さり、感謝の気持ちをこめて全生園をあてました。



日青会 多磨「全生園」御会式法要 10月29日(火)

Comment
法要は厳粛に行われ、参集された皆様と一緒に日蓮聖人のご生涯を思い返し、感謝の思いでお経を上げ、唱題の時には力強く太鼓を叩き報恩感謝の法要となりました。

社会活動部会では、十月十六日の台風二十六号による大雨で被災した伊豆大島にて、十一月五日から十五日にかけて東京東部防災部と連携をして被災者の慰霊と救援ボランティア活動に参加しました。

当日は日蓮宗寺院の海中寺に宿泊させて頂き、主に土砂のかきだし、運搬、土嚢作り、被災した住宅の家裁道具の運び出し等を一般のボランティアの方と共に行いました。

また、自衛隊の撤収と同

日の十五日には被害の大きかった元町地区の上流にて被災者慰霊供養を営みました。



**社会活動部会
伊豆大島被災地支援
11月5日(火)~15日(金)**



**宗務所
教師研修旅行
11月26日(火)~27日(水)**

Comment
写真上段と左下は伊勢神宮。右下が日蓮聖人が身を清められたと伝えられる「誓願の井戸」です。

平成二十五年度教師研修旅行を十一月二十六日(二十七日の一泊二日)の日程にて開催。参加者二十五名、伊勢神宮並びに日蓮聖人「誓願の井戸」を参拝させて頂きました。

伊勢神宮は外宮・内宮ともに第六十二回式年遷宮を迎えたばかりという事もあり、とても大勢の方々が参拝されており、歴史の深さを感じさせられるものとなりました。また、「誓願の井戸」では参加者一同にてお勤めをさせて頂きました。

この「誓願の井戸」は京畿遊学を終えた日蓮聖人が、清澄への帰路、一百日の間おこもりし、水行で身を清めて三大誓願の誓いを立てられた神聖な場所と伝えられています。

伝承では、水行を終えた日蓮聖人の眼前に妙見菩薩が示現され、法華経護持の誓いを得たといわれます。その由来から、「誓願の井戸」の辺り一帯を、古くは妙見町と呼んだようです。参加者一同とても有意義な研修をさせて頂きました。



**宗務所
ミャンマー/ビルマ
ご遺骨帰国運動
12月10日(火)**

Comment
「ミャンマー/ビルマご遺骨帰国運動」のHPです。
<http://mbr-rtj.net/index.html>



族の方々の暮らしや思いを伝えてくれました。

「日本が戦ってくれたからアジア諸国は独立することができた」「日本軍は魂を持ってきてくれた」という現地の方々の声に大東亜戦争はまだ終わっていないと感じるということです。

「祖国に帰りたい」と亡くなった方々の御霊をふるさとへお迎えするために、現地ご遺骨調査へのご寄付をお願いします。詳しくは「ミャンマー/ビルマご遺骨帰国運動」のホームページをご覧ください。

十二月十日、朗子会館において、「ミャンマー/ビルマご遺骨帰国運動」に取り組んでいる久が原安詳寺住職・小島知広師の報告会が開催されました。

ミャンマーは、人口の約七割を占めるビルマ族と十三ほどの少数民族による多民族国家であり、それぞれの少数民族は民兵組織を持ち微妙な均衡の上に成り立っている複雑な国家です。

インパール作戦において補給路もない前線で病気や飢えに苦しみ故郷を思いながら亡

くなられた日本兵のご遺骨が、今なおミャンマーには四万五千柱も眠っています。

しかし現在のミャンマー国内の和平を築かなければ、日本政府はご遺骨収集に取り組み事ができません。そこで宗派を超えた日本の宗教者がミャンマー政府と少数民族の調整役を務めながら、ご遺骨収集の道筋をつくっています。

小島師はこの運動を推し進めている「四方僧伽」の代表として年数回現地に赴き状況を視察しています。写真を通して小島師が出会った少数民族

Nanbu 第6号
平成26年5月
発行 日蓮宗東京都南部宗務所 宗務事務所
〒152-0031 〒146-0082
東京都目黒区中根2-21-17 東京都大田区池上1-1-1
立源寺内 大本山池上本門寺内
電話 03-3717-1387 電話 03-3753-5547
FAX 03-3724-7284 FAX 03-3754-1825

『Nanbu』第7号は**今秋**発刊予定です。

編集後記
合掌 本年も紫陽花が大輪の花を咲かせる季節となりました。今回は昨年7月からの各会の行事を掲載させて頂きました。本年も所報『Nanbu』をどうぞよろしくお願ひ致します。(小林顕秀)

試行錯誤の末、やっと読みやすいレイアウトが見つかりました。今号の発刊が遅れてしまったことを心よりお詫び申し上げます。(古河良啓)

【記事・写真】(50音順、敬称略)
池田真一・石井孝憲・石井常晴・石井隆進・大島啓慈・小山光祐・酒井智康
中里勝雄・吉田尚英 (ご協力ありがとうございました)